

明寫後正夢發端

上

^ 13
2909
1



13
2909
13
2909
1

教訓 郭里の東雲卷之上

江戸

花櫻の段

楚満人段
為 永春水筆刪
松亭金水稿本

色いろ々々々々移うつらふものハ世間よの人の心こころの花はなぞハ小野この
小町こまちガ詠歌よみうたの姿すがた艶あざたりぬるる。花はなのはな野のの芳よし
野のととらぬ。ささみみくるねど程ほど遠とほき国くにハ志こころををららくく阿あ七なな。
ままぐ大おほ荏じん土つちの花はなとといいふふ隅すみ田たの堤つみふ飛あそ鳥と山やま上のうへ野の乃なり

昭和九年
七月二十一日
財末

彼岸御殿山。渋谷に金王ざくらあり。日暮里。感庵
寺。八重も一重もあるふ所の名をも花川戸。あぐに
閑居の独住名と時二郎と号する。親ハ名ふおふ
春日屋と。人にあうまう似代るほど。窮屈なと
きろひる生也。此別荘にのららると。四邊近所の
友どちと集めてくらふ。面白き。たゞ一個座の上
る。月つきの小ぼろの雑用も。何不足多く送により。
人も随分えらまれて。朝ハ己刻比齒磨と。はくひ

る。湯ゆにゆハ。此ひとぐが風俗して。楽らむ
はう人羨うらやま。頃ハ弥生やよいひの初つと。あひあふる友
どちの文志ぶんし三鳥里さんとり拵しらて是も此処考ふかまる。花
人々と羨うらやひて。花とえんとて出でるが。時とき「る」と文志
さん花はなをくりえても素面すまへよアツわくちよ。ゆと
味道ちみちの益助屋えきすけうるんぞで。ひとら飲のみさうぐさう
文志ぶんし「やアようらう。おきもそうあつてみる。は
そるる。さるさんおはる。すト夫とよりお合あい人ひとづ。

らるる

二

文「ころんおを」きめのとるるかうふ。ざらに時^{とき}が
 争^まふとるが^時「そま」どつても。あんまり早^{はや}く遠^{とほ}くても
 間^まがころろららるやアねう。文「た」早^{はや}けりやア益^{ゆき}え世
 どもひやう一の失^なる^れ。まて入^いふ。速^{はや}ふおーあつと
 きあるる^お「おま」の里^{さと}ぢや^る。先^まに的^{てき}があは
 くらいつま^まず。おま^まや^まこま^まへ。そんま^ま氣^きのま^まつこ
 とアま^まう。あんまり早^{はや}くお^おあ^あるの^のハ^ハ氣^きがま^まる
 ね^ニ「そま」よ^よく^く「文」る^るで^でま^まい^いくら^らま^まし^しね^ねん。

一^一早^{はや}くつて氣^きがま^まる^るね^ねん^んも^もう^う。一^一度^どや^や二^に度^どハ
 おま^まも^もち^ちらと突^つ合^あふ^ふが^がい^いら^ら。あ^あう^うま^まこ^こり^りま^まの
 あ^あう^うが^があ^ある^る。何^{なに}処^{ところ}へ^へでも突^つ合^あふ^ふや^やま^まう。三^三ら^らみ^みく
 ろ^ろち^ちハ^ハお^おま^また^たま^ま暗^{くら}む。お^おま^まも^もか^かま^まや^やア^アね^ねん^んお^おま^ま入^い
 る^るお^おま^ま外^あへ^へい^いく^くる^るア^アね^ねの^のほ^ほう^うあ^あとい^いふ^ふお^おま^まら^ら
 時^{とき}と^とん^ん「そま」さ^さる^るん^んで^でま^まる^るま^まお^お報^はる^る所^{ところ}ま^まう^う。
 初^はけ^けに^にい^いら^らま^まく^くま^まね^ねこ^こよ^より。ま^まま^まて^てあ^あく^くま^まね^ねら^ら
 る^るが^が心^{こころ}持^{もち}が^がい^いと^とり^りま^まん^ん。お^おま^まも^もま^まま^まる^るや^や

心持が...

コ

ねろ 文（ま） 芳（よし） くそんるる 出（で） のひやせうト連（つれ） ぎらて
 ち（ち） 子（こ） にさ（さ） かつと。むふろろ来（く） らハ杉（すぎ） 形（かたち） のとわら
 の（の） 吉（きち） 尾（お） 持（もち） らげん志（し） びりのの（の） ね（ね） ぐひとろり。
 結（むす） 球（たま） 木（き） 綿（わた） のろ（ろ） 下（か） には小（こ） 紋（もん） ちりめん（ちりめん） の小（こ） 紬（つと）
 糸（いと） 織（おり） の帯（おビ） としめを羽（う） 判（はん） のハ急（いそ） ぎで小（こ） 声（こゑ） してぞ
 りとを唄（うた） ひるがう来（き） ろり 吉（きち） イヤ志（し） のやア目（め） 形（かたち） ごと
 おそろひどろ 時（とき） 止（とど） 目（め） 形（かたち） もねんど吉（きち） ろろ今（いま） けろ
 のろ。ゆ（ゆ） べの信（しん） ぶやアねろ。夫（とこ） にしちやア今（いま） 時（とき） 分（ぶん） るせ

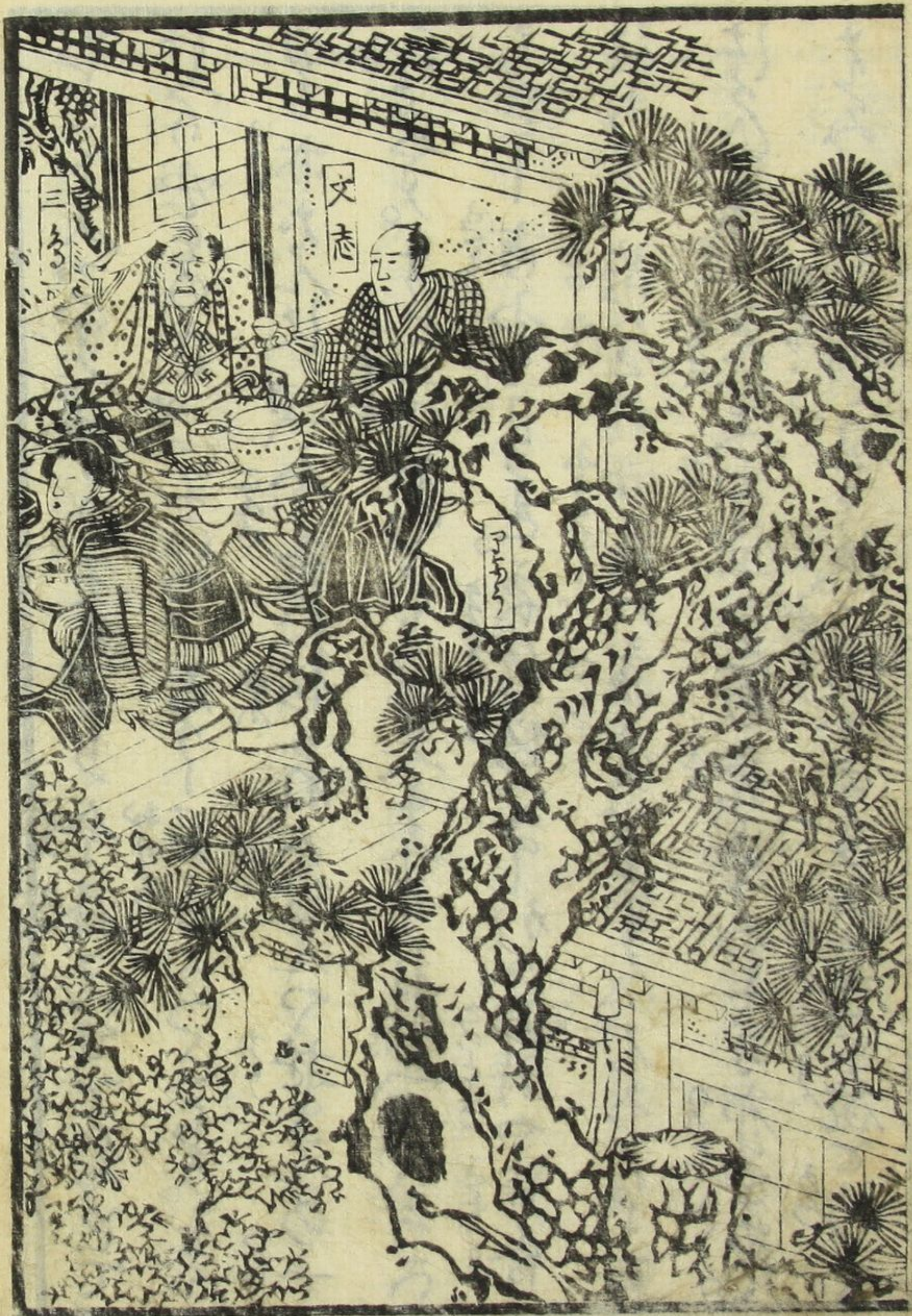
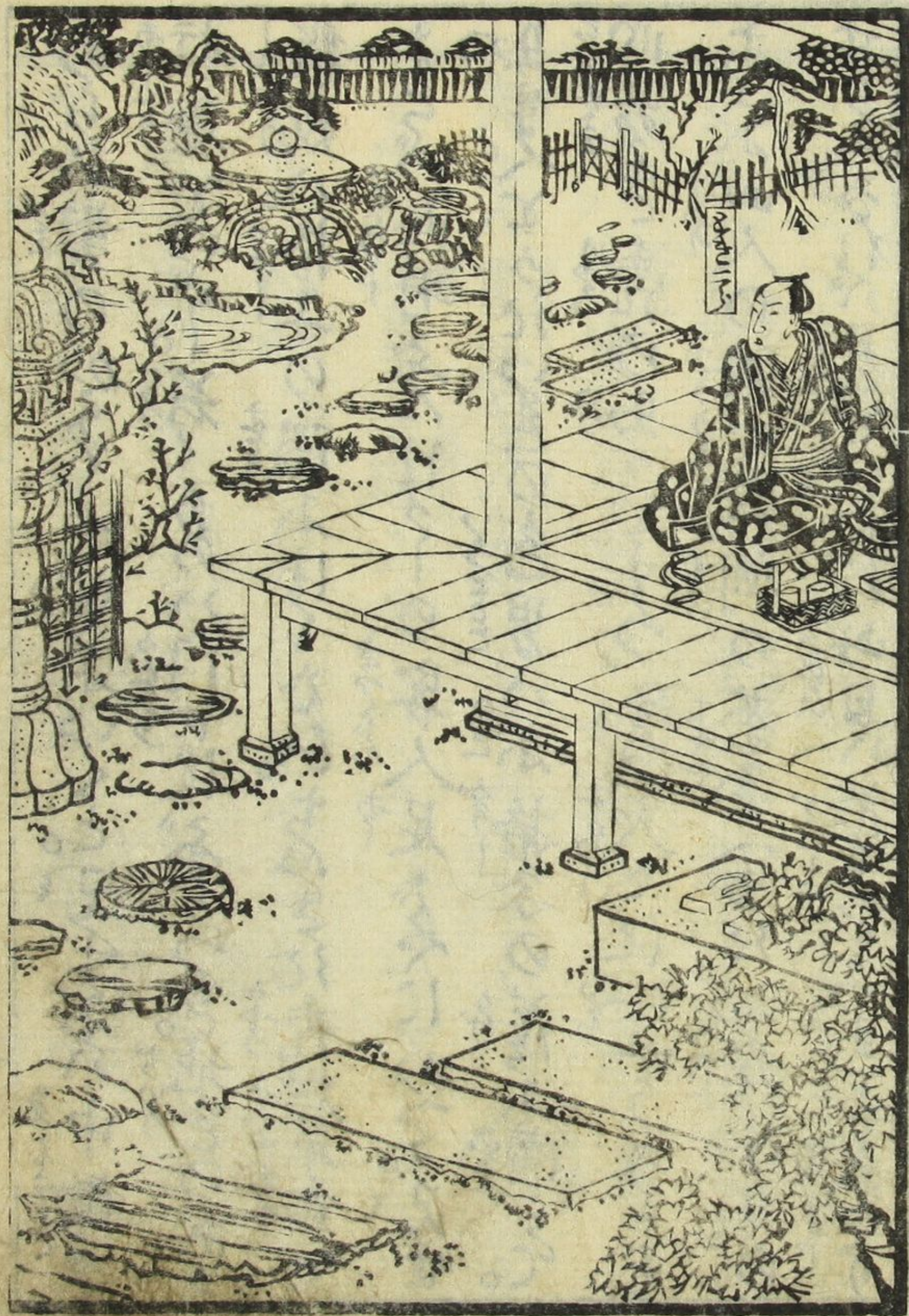
けろのこ 吉（きち） マアまのておんるる吉（きち） 入（い） るお目（め） くら方（かた） 々
 ひろくして居（ゐ） ぐ所（ところ） ぐ山（やま） 屋（や） の竹（たけ） ちりに遠（とほ） まてサ。
 こまろろころへ往（い） くら。一（ひと） 所（ところ） ふしけとひまろろら。
 おらアモウこはよアそりくこ吉（きち） があるら。や
 ごとひの中（なか） ころ。マろくもんでお目（め） くら吉（きち） かつと
 いつて吉（きち） ろろとるの山（やま） 科（か） ぶアね入（い） 山（やま） 志（し） ろろ入（い）
 いた中（なか） と知（し） がアからうが吉（きち） らるるによくさねて
 めんぞろ。今（いま） 朝（あ） もけろり入（い） とひのこ。ちろくくと

引出^{ひきだ}して所^{ところ}が仲^{なつ}の町^{まち}ふち^ちと用^{もち}がある^あらう。
 まして遠入^{とんいり}中^{なか}で。夢^{ゆめ}者^{もの}のお傍^{そば}ふあひ中^{なか}。シタ^{シタ}ん
 マア^{マア}ま^まこ^こ遊^{あそ}ぶ^ぶけ^けら^らま^まも^もけ^けま^まど^ど。マア^{マア}お傍^{そば}の^の処^{ところ}へ^へ往^ゆて。
 何^{なに}も^もか^かも^もお^おら^らな^なく^くて。揚屋^{あげや}町^{まち}の湯^ゆへ^へ遠入^{とんいり}。シタ^{シタ}所^{ところ}が
 酒^{さけ}も^もる^るあ^あも^もさ^さめて^て仕^しま^まる^るて。靴^{くつ}つ^つき^きる^る山^{やま}折^お禱^{たう}。遠^{とん}
 こ^こ中^{なか}で。ほ^ほま^まく^くわ^わく^く。お傍^{そば}の^の太^たろ^ろさん^{さん}と^とた^たの^のん^んで。
 江^え笑^が清^{きよ}の^の所^{ところ}へ^へつ^つて^て中^{なか}の^の両^{りやう}人^{にん}に^にて^て百^{ひやく}匹^{びつ}の^の奔^{ほん}り
 さ^さ。登^{のぼ}ら^らむ^むる^るその^の傍^{そば}ら^らう。こ^こは^はで^で流^{なが}して^てむ^むら^らう^うら^らう

む^むど^どよ^よみ^みご^ごせ^せ入^い中^{ちゆう}。そ^そま^まこ^こら^ら今^{いま}益^{えき}又^{また}せ^せと^とひ^ひび^びて
 け^けり^りか^かの^のさ^さ。一^{ひと}そ^その^のう^うあ^ああ^あ。面^{おも}白^{しろ}く^くら^らう。そ^そん
 る^る亦^{また}な^なん^んに^に。今^{いま}夜^よ六^{むつ}何^{なに}ね^ね。文^{ぶん}さん^{さん}や^や拵^{ぢう}え^えの^の一^{ひと}
 疋^{びつ}や^や。ま^まこ^こ二^に丁^{てい}め^めで^でも^もご^ごせ^せ入^いま^ま中^{ちゆう}ね^ね。時^{とき}一^{ひと}ま^まく^くそ^その^の
 ら^らさ^さト^ト吉^{きち}ふ^ふも^もこ^こら^らま^ま。衣^え紋^{もん}扱^あへ^へさ^さう^うか^かる。此^{こゝ}時^{とき}や^や黄^{わう}昏^{こん}
 に^にち^ちろ^ろく。茶^{ちや}室^{むつ}の^の女^{によ}房^{ぼう}ハ^ハ夜^よ食^{じき}と^とま^ます^すひ^ひ。う^うら^らめ^めと
 ほ^ほる^るら^らう^う。世^よ入^い出^で。十^{じゅう}三^{さん}の^の禿^{かぶ}あ^あら^らむ^むら^ら布^ふ子^こ。あ^あら^らで
 た^たみ^みぐ^ぐき^き。一^{ひと}袋^{ふくろ}こ^こら^ら紙^し二^に帖^{てい}と^とも^もふ^ふ蓋^{かき}茶^{ちや}碗^{わん}と^と拵^{ぢう}え^え。

つら

ハ



あつみ

あらひ髪かみのかうくとあはつふふいととんん中ちゆう働とらが
行あ燈いとといい。若わイイめめハハ門かど口ぐちににぶぶららつつきき地ち色いろののああり
雛ひな妓ぎハハ格かく子しのの隅すみ不ふははくくななひひ。ちちののささららたた虎こ煙えん草そう盆ぼんと
たたららぶぶ。此この時ときぶぶええげげららのの客きやく人にん足あしななややににかかるる。又また在あり
出でまま入いととううたたいいままのの色いろ男おとこハハ小こ格かく子しのの産うみみ不ふ潜ひそままて。
心こころ易やすきき虎このの出でかかととままつつ。ままのの夫おとこをを一ひとかかううるるままで。
ああららふふ四よ人にんのの控かう客きやくハハ例れいのの茶ちやををへへかかたた。おお定さだままりりのの
せせののああるるわわがが目めとといいふふ。此この日ひハハ盛さかれれももつつままにに成なり交まじりり
七

つついい世よへへゆゆくく。文ぶん志し里り控かうハハ馴な染せんああてて。志しつつもも成なり交まじりりののち
文ぶん志しがが相あ方はたハハ春はる町まち里り控かうがが相あううハハ浪なみ花はなああのの
二ふた人にんハハ今いま宵よつつたたああひひのの初はつ會あいい合あひひ。階か子しハハ多おほくくととあありり
文ぶん志しハハ里り控かうををままくくししららつつ。ああひひままううとと文ぶんハハけけるるハハおお久ひさ
ししねね。大おほききハハ小こ暖あたたかかるる中ちゆうとと里り「イヤイヤああつつややおおんんおお
ももここハハねね。なな「ななままううささ。おお「おおんんあありりハハかかんんととままんん
ままででひひががんんままままでで里り「そそううののここままハハ大おほききハハ小こああつつととままんん
ややままううととトトンンひひるるがが文ぶん志しがが相あ方はた春はる町まちののささううたた入い
七

七

つる 春へもあそぼうでよくお出るえいし子。こいさ
改や里おさんぐおさうらうこと。浪花おんにおしらせ
やーや 一アイトまきゆい程ゆく 浪へもや文さんよう
あひでるえいしおねけらうら春町さんぐ。どるお待て
居さうらう。毛春町さん。今夜の夜うらハたうこ
浪をでもしひつけさうらう子 妻へるがえ 浪へ
るがえお入のんぎまふけらうら毎日毎たん文
さんのことたあうりのろけるえいし。其うけちんあさ

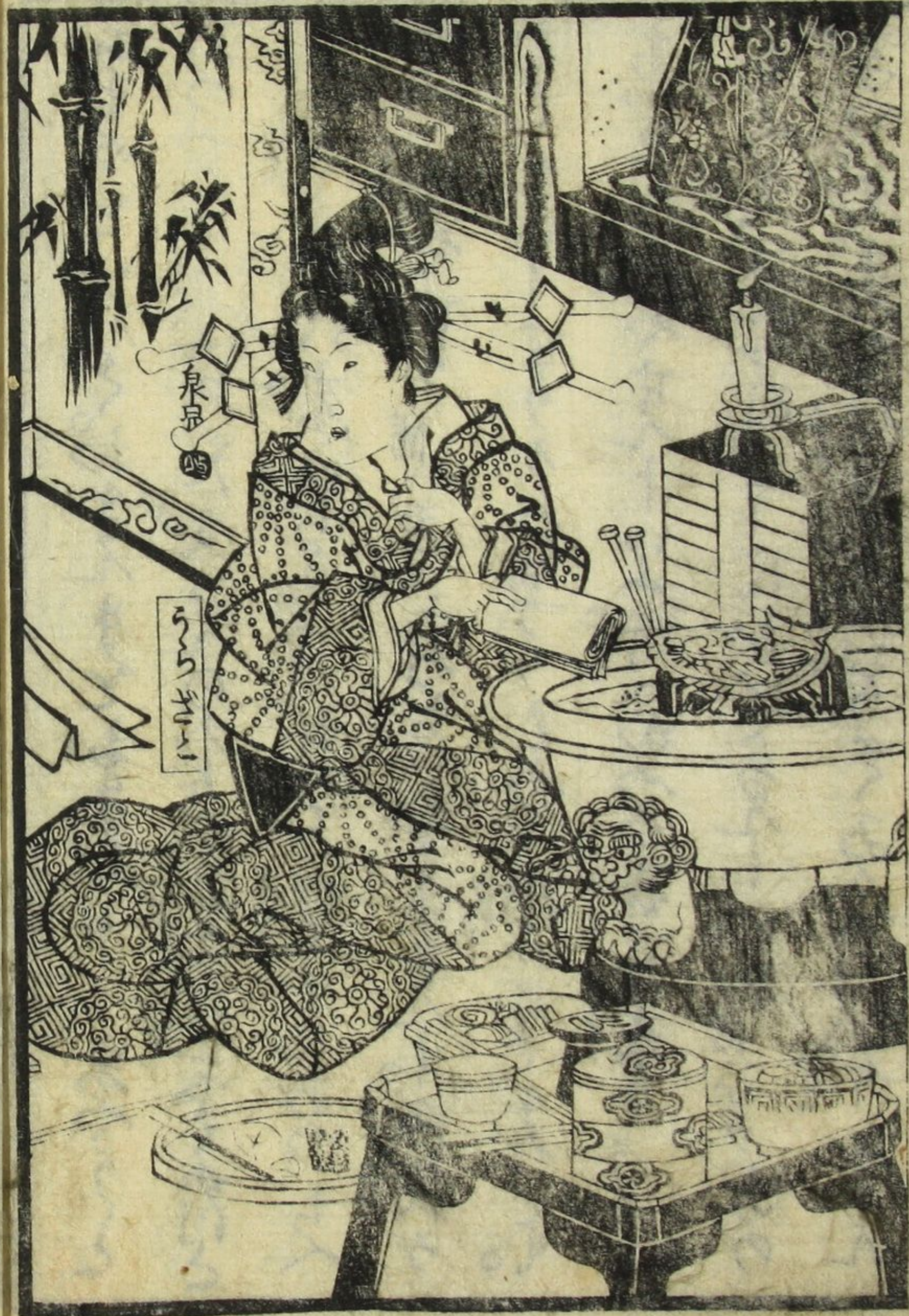
文コウ あつらえよてくんわん。きんら白歯そあてもご
のう 浪へあひせ鏡とひひるんさのう。やたうららホニ
わいと嵐おでもして天井でもそれのろけとあま
せやうらあせとヨトひらうち。着いの飛子さうづたせ
のちりでまへ文さん里おさんよういららわいまへい
トひお茶をの男へ文さんあつて方ハ。どるこが
よみひびふまはさう。あるこ方もサアハわいあづりまう
文へそらさむらうきんらうふえおつてとへい

あつらえ

こ

禿舞妓かぶまじにならうましく。口くちの鐘かねのどきき声こゑを度たくらく
 てやうく文ぶんへるんとモウあつた付つにやううちやう
 ざらう里さとへちたふそるる上うへがうらうらう。どくどく
 世よへころちやアかうぎふ酔よひげげ去き年ねん酒さけのまらけ
 うもえゆるふ酔よひ上うへやわく。びよサマまはちやう
 づみしらう一ひと夜よま。里さとおさえおはきいひさうヤシ
 ちやう里さとへヤシやしひさびさちやわくでも先まへへころびさう
 ちよちよ時ときにもあひさうひさびさひさびさ氣きづかう。些ちよ

あやうのてみんご。げるふモウ元げん氣きがよくもあつた
 世よのた。さう一ひと夜よも酒さけがさだまひさうね。あつた
 ころころいんちやまかせ。アうらうちやういひま
 三さん「あつたふさふさ酔よひ世よへちたふそるる上うへがうらうらう
 ちやわ。げんいもさうちやう。コサみさうらうね。とちやう
 くるる。みさう「ア。ちやうちやうあつた。とちやうさう
 一ひとまもあつた。時とき二に部ぶが今いま實じつのちやうさう首くび屋やうと
 ちやう。ちよもちやうさう。帯おびもさうさう。その



老の女上

下

あぢけりくからひしる何うさるの多。あつたりま
 のあるのど。トナ 又あつとて少一寐さてくぬ
 わく浦^浦不^不立^立お移ろ^移カイせんぬ^ぬの^の考^考に^に移^移ろく
 け^けま^まで^で本^本さ^さら^らの^のガ^ガ困^困果^果ど^ど。コ^コら^らの^の蛇^蛇に^にく^くは^はな^なを
 と^とあ^あつ^つて^て。今^今夜^夜な^なる^るハ^ハお^おき^きく^く居^居て^てお^おく^くん^んる^るん^ん。
 聖^あま^まわ^わく^くあ^あら^らし^して^て。あ^あこ^こさ^さん^んに^に何^何さ^さし^しと^とわ^わる^るん
 廿^廿う^うグ^グ。その^{その}後^後あ^ある^るハ^ハ不^不肖^肖し^して^てお^おく^くん^んる^るん^ん。時^時ハ
 その^{その}あ^あこ^こさ^さん^んガ^ガあ^ある^る後^後あ^ある^る。い^い年^年と^とし^して^てる^る寐^寐ア

してあるき^きら^らマ^マ。あ^あせ^せん^ん浦^浦ハ^ハい^い年^年と^とし^して^てる^る志^志学^学を^を社^社。
 ぬ^ぬー^ーる^るん^んぢ^ぢア^ア。誠^ま不^不さ^さる^るので^{ので}あ^あら^らし^しき^きあ^あら^らハ^ハ時^時ハ^ハや^やり
 盛^さび^びと^とわ^わ入^入の^のさ^さ浦^浦ハ^ハそ^そし^して^てい^いふ^ふあ^ある^るん^んく^くし^し時^時ハ^ハあ^ある^る
 口^く調^{てう}が^があ^あら^らし^しき^きあ^あら^らハ^ハ浦^浦ハ^ハそ^そし^して^てい^いふ^ふあ^ある^るん^んく^くし^し時^時ハ^ハあ^ある^る
 お^おい^いち^ちら^らる^るん^んさ^さら^らあ^ある^るヨ^ヨ。大^おこ^こ二^二十^十四^四う^う。三^三に^にら^らる^るら^らハ^ハあ^あら^らし^し
 ら^らう^う時^時マ^マそ^そえ^える^るん^んも^もし^しぢ^ぢぢ^ぢあ^あつ^つの^のヨ^ヨ。入^いん^んに^に四^し
 ぢ^ぢた^たハ^ハマ^マウ^ウ二^二十^十六^六と^とあ^ある^る。ぢ^ぢぢ^ぢも^も入^いも^も二^二十^十五^五と^とあ^ある^る
 い^いち^ちわ^わ入^いせ^せ浦^浦ハ^ハあ^あら^らし^しき^きあ^あら^らハ^ハ時^時ハ^ハあ^ある^るん^んく^くし^し時^時ハ^ハあ^ある^る

新編 雑学

老づん^{まろむ}をたんに往^ゆくら。山下^{やまもと}をさらうに蛇^{へび}つけ入^いり
 るえらういふ^{まを}世^よのふ。こちまのやうなる看^ま板^{いた}あり
 ま^まうらひ^時おあひ^いがうきふ^あおおぞぐ^いらふ^あ。そ
 ろ^あア^ぶた^ぶこ^ぶ十年^{じゅうねん}も跡^{あと}の工^{わざ}を^しらう^あ浦^{うら}へ^し可愛^{こひ}そ^う
 にあふ^あぢ^ぢけ^ける^るえ^えたま。日^ひち^ちま^まや^やア^アそ^そえ^える。な^なま^まえ^えに
 入^いる^るえ^え入^いる^る時^{とき}へ^へヤ^ヤそ^そう^うし^しを^をね^ねら^らや^やア^アお^おね^ねも^もこ^こま^まね
 浦^{うら}へ^へや^やね^ねや^やア^アら^らそ^そ堅^かく^くあ^あら^らら^らむ。る^るや^やア^アら^らる^る
 ち^ちう^うと^とく^く居^いら^らう^う一^いか^か入^いる^る時^{とき}へ^へは^はえ^えて^て入^いる^るお^おの^のら^らの^の堅^かい

生^なま^まよ^よ。そ^そま^まふ^ふ今^{いま}後^{あと}の^の辨^はん^んと^とめ^めん^んど^どう^う。夫^{つま}る^るの^のに
 秘^ひく^くえ^えど^どま^まる^る浦^{うら}へ^へサ^サク^クお^おひ^ひと^とお^おと^とた^たる^るえ^えト^トく^く
 と^とと^とく^く時^{とき}へ^へお^おね^ねふ^ふげ^げら^らう^うさ^さる^るの^のう^う浦^{うら}へ^へま^まど^どう^うも
 ち^ちう^うら^らい^いん^ん。こ^こち^ちら^らた^たが^がむ^むう^うして^{して}時^{とき}へ^へが^がう^うき^きふ^ふ昔^{むかし}う^うこ
 ぎ^ぎど^どの^の。あ^あう^う一^い外^{あひだ}の^の客^{きやく}人^{にん}ふ^ふや^やア^ア。け^け一^いく^くと^とく^くと^と且^{かつ}
 形^{かたち}ら^らい^いひ^ひは^はら^らう^うの^のう^う浦^{うら}へ^へま^まど^どう^うも^もお^おく^くえ^える^る一^い。そ^そん
 る^るい^いから^らい^いん^んの^のハ^ハあ^あり^りま^ませ^せん^ん思^{おも}ひ^ひと^とい^いふ^ふの^のア^ア。
 古^{ふる}身^みに^にあ^ある^るそ^そう^うぢ^ぢま^まん^ん時^{とき}へ^へま^まど^どう^うも^もあ^あら^らる^るの^の。ア^ア

まり心グわんからとどまりて。こゑるして飲^ので仕^ま
 つくア時^トそらうとていふもいふ。たひたうもいふハお
 らむとよ 浦^ノアイ文^まん一^まくもあへるんトなご
 としひて出^まさ。文^志ハのこるうう 文^コウ 浦^里さん
 笑^まてらんわん。ア春^町といふ女^ハ。さうもふ^てにも
 足^あふもあへわんおとさうとせよ。るんのなますのめ
 ともいへぬ[。]茶^碗さけりるんぞを[。]冷^やア[。]う[。]江
 戸[。]孫[。]島の川[。]う。志[。]ぼ[。]う[。]く[。]の隈[。]ざ[。]り[。]といふま[。]を

出[。]て。浅[。]黄[。]う[。]らの床[。]入[。]といふ鼻[。]息[。]で[。]お[。]て[。]あ[。]
 うら。い[。]から起[。]て[。]い[。]も[。]わ[。]ら[。]い[。]ら[。]る[。]い[。]よ[。]お[。]は[。]が[。]ア
 ぶ[。]も[。]客[。]ハ[。]わ[。]ん[。]ち[。]う[。]ご[。] 浦[。]ハ[。]わ[。]ど[。]や[。]ア[。]コ[。]ち[。]た[。]筆[。]う[。]が
 ら[。]ち[。]で[。]わ[。]い[。]ん[。]さ[。]入[。]る[。]あ[。]い[。]ら[。]い[。]ハ[。]あ[。]り[。]ま[。]せ[。]ん[。]ら[。]お[。]ど
 モ[。]酒[。]と[。]飲[。]ま[。]さ[。]う[。]て[。]ま[。]ま[。]り[。]ま[。]い[。]ヨ[。]あ[。]う[。]い[。]そ[。]ま[。]い[。]も
 マ[。]ね[。]い[。]る[。]ん[。]さ[。]う[。]ス[。]い[。]く[。]来[。]さ[。]う[。]い[。]か[。]め[。]ん[。]と[。]ら[。]う[。]さ[。]う[。]
 一[。]し[。]か[。]ら[。]ん[。]か[。]い[。]れ[。]た[。]い[。]の[。]外[。]の[。]か[。]ん[。]い[。]め[。]
 ぶ[。]ア[。]。そ[。]う[。]い[。]ま[。]り[。]ま[。]せ[。]ん[。]ま[。]い[。]る[。]え[。]ら[。]う[。]さ[。]う[。]

いふ

十一

わんぐ。あまよやアおそまらら。サく、コにても
 往て寤ねやせう、浮々して居て。モウいままよ夜よの
 あつらうは。あつかりおのこころせんと立
 かる早はやくしひがいと多おほく寝るねが浦うらマア
 おけぬしるしまゆ「どうでおいらんが、その寐
 て居るら。マアはるしる。文あまこ聖あくすい
 くら。ちのと寐ねかりよトしひまがら障しやう子こをた
 すとあひく。文あるるほど夜よが短みぢくはるるこ

不寐ねぞをんがあんどんの掃除そうぢをけぐらら。
 モウ、あつらうは
 「はる早はやがりの客きやくらううをさく

郭里乃東雲卷之上 終

